

新しいぶどう酒は新しい皮袋に(ルカ 5:33-39)

イエス・キリストを信じて受け入れた私たち信者は、その人の能力と才能、人間のあり方などと全く関係なく、信じた者はすべて聖霊が宿る神の神殿となります。その結果、キリストのからだなる教会となり、キリストがなさる救いの働きができる者になります。つまり、この地に神の国を実現することができる証人になる祝福の主人公になります。聖霊が臨まれると力を得て、エルサレムから地の果てにまで私の証人となりますと言われた通りに、証人として福音宣教を通して死んでいるたましいを生かすいのちの運動、みことばの運動の主人公として召されているに間違いありません。なのに、信者でありながら、なぜ自分にはそのような気持ちが芽生えないのでしょうか。この福音を伝えなきゃ。周りの死んでいるたましいを見てかわいそうに思い、キリストのいのちの福音を伝えなくちゃ。伝えたいなという気持ちになることが当然であり、信者としての祝福でもあります。なのに、なぜそういう気持ちが私には芽生えないのか。またその気持ちがあったとしても、なぜ進まないのかということを実際に問いかけて、聖書を通してその答えをいただきたいとそう願います。いろいろな理由があるでしょうけれども、一番大切なのは、自分も知らないうちにイエス・キリストを信じているにも関わらず、過去にそのまま縛られているから伝道者として召されているにもかかわらず、その気持ちさえ芽生えないし、気持ちがあったとしてもなかなか実際に進むことができないでいるということが現実でもあります。過去に縛られているということは、自分の判断でその過去にあった悪いものでも、あるいは良いものでも、過去そのものに囚われて縛られているからだということをぜひ覚えましょう。

今日の聖書箇所は、その過去に縛られていたパリサイ人と律法学者たちがイエス様に向かって「あなたの弟子たちはなぜ断食などしていないのか」「ヨハネの弟子、パリサイ人の弟子たちは、しっかりと儀式に従って断食などを行っているのに、なぜあなたの弟子たちは食べたり飲んだりばかりしてるのかとクレームをかけました。それに対してイエス様は、花婿に付き添う人々がその花婿がいる間に断食することができるのでしょうか。イエス・キリストがここにいらっしゃるのに今までやっていたその通りにするわけにはいかないのではないかというお話をしながら、新しいぶどう酒は新しい革袋に入れなければいけませんということをおっしゃいました。つまり、過去に縛られてはいけません。なんでもかんでも過去のことをどうにかしようとか、過去のことを忘れようという話ではありません。花婿がここに来ていらっしゃるから。イエス様がキリストに間違いなければ話は変わるようになります。なので、今日のこの聖書の箇所を通して、まず私たちが過去に縛られていた、そこから自由になるためにこのように整理しなければなりません。

1. イエス様に会おうまでのすべてはその役割が終わったことが分かる時、過去から自由になる。

第一、イエス様に会おうまでのすべてのことは、その役割が終わったということが分かるようになれば、過去から自由になります。もう一度言います。イエス様と自分が会おうまでのすべては、すでにとっくにその役割は終わった。これが明確に分かれれば過去から自由になります。

今日、パリサイ人たちは、なぜ断食をしていないのかという話をしました。それが律法によることなのです。キリストが来られるまで、私たちはキリストを待たないといけない罪人なんだ。キリストの他には希望がない。肉などには希望がないということを教えるために断食を律法の中で示していました。それを取り上げて、なぜ断食をしないのかということを行いました。

1) 律法の役割(ガラテヤ 3:23-24)

しかし、イエス様が今おっしゃっているのは、そのキリストが来られるまでの律法の役割、過去の役割は

もうすでに終わった。キリストが来ている以上、それは役割を終えたわけなのです。ガラテヤ 3 : 23-24 には、律法の役割についてこのように記されています。信仰が現れる以前には、私たちは律法の監督の下に置かれ閉じ込められていましたが、それはやがて示される信仰が得られるためでした。こうして律法は私たちをキリストへ導くための私たちの養育係となりました。私たちが信仰によって義と認められるためなのです。断食をしたり、律法が与えられて守るといふこと、その役割はキリストが来られることを準備して、キリストが来たときに正しくキリストを信じて義と認められるための役割だったのです。キリストへと導くための養育係、ガイドのような役割なので、キリストが来られた以上、その役割は終わりなのです。それがいくら立派で素敵で、いくらもっともな理論、法則であっても、役割はそこで終わりなのです。私たちはユダヤ人のように律法などを持っているものではありません。

2) 道徳、倫理、法律の役割(ローマ 8:4)

でも、私たちにもキリスト・イエスと出会う以前に、道徳という法則があり、倫理というものが律法の役割をしていました。しかし、そういったものも結局、道徳では救いの道はありません。道徳の役割、律法の役割というのは、まず第一に、キリストが来られるまでに、キリストが来られるまで守られるために社会を維持しないとイケないのというのが一つの役割でした。そしてメインの役割は、キリストを待ちつつ、キリストが来られたときにキリストに飛び込むための養育係だったわけです。私たちが今まで教わって守ってきた道徳、倫理を無視する話ではありませんが、それはこの社会、私をキリストと出会うまでに守って維持するための役割があって、道徳の前に立ったときに、本心から自分の本能の方から道徳、倫理を正しく徹底的に守ることができないということに気づくようになります。それがなければ気づくことができないけれども、決まりがあったりルールがあれば、それを守っていながらも本当は守るような人間ではないということに気づくはずなのです。だからキリストしかない、キリストへとという養育係の役割をしていたものが私たちにもあったわけです。それに対してローマ 8 : 4 にこう書いてあります。「それは、肉に従わず御霊に従って歩む私たちのうちに、律法の要求が満たされるためなのです」。これからは道徳によって生きる者ではなくて、ルールを守る者ではなくて、その役割は終わったのに未だに社会ではそれが通用されているので、参考にして無視してはいけませんけれども、私たちにとってはその役割は終わったのでそれに縛られることなどありません。私たちはそれにはるかにまさる聖霊の導きによって生きる者なのです。けれども聖霊の導きによって生きることがなかなかうまくいかない信者の場合に、いまだに道徳、倫理がその人が生きる原理なのです。役割がまだ終わっていないのです。だからそれを守るか守らないか以前に、それに縛られているわけです。となると、その次に進んで証人として伝道者としてのいのちの働きとはなかなか結びつくことができないのではないのでしょうか。これが信者の現住所です。今日のメッセージを聞きながら、真剣に深く素直に自分自身を顧みて考えることになることを祈りたいと思います。

3) 絶対解決不可能な霊的問題>キリスト Only 絶対キリスト>イエスはキリスト

律法の役割、道徳と倫理の役割は、あ、なるほど私には絶対解決不可能な霊的な問題があるんだということに気づいて、だからこそ律法ではなくて、道徳や倫理ではなくて、キリストでなければいけない。キリスト Only、絶対キリスト、それを認めるように、それを告白するように。そして幸いなことに十字架で死なれて復活なさったイエス様がそのキリストであると素直に告白して、その信仰の方に飛び込むための役割があったわけです。律法そのものがいまだに勢いよく力強く働いていて、なぜ断食をしていないのかという質問をしたりするということは、それにいまだに縛られているのです。つまり、過去の役割が、律法の役割が、道徳と倫理のさまざまな過去の価値観の役割が終わらないうと働いているわけです。信者なのに。だから自由になりません。心配することも躓くことも落胆することも全部基準が過去の価値観で過去の道徳と倫理なのです。人を裁くときにもすべての基準がそういうものではないのでしょうか。いまだに私たちは道徳と倫理に縛られて聖霊の導きとは関係のない人生を送っているのではないのでしょうか。

4) 否定、認めない-役割は終わらずずっと

今、申しあげましたように、もし私たちが自分は道徳や倫理、律法などでは絶対解決できない霊的な問題

を抱えている罪人だということを認めないと、それを否定する場合は、信者でありながらも過去の役割は生き生きとずっと働くようになります。つまり、私たちは礼拝を捧げて信仰生活をしているにもかかわらず過去の奴隷になり、過去に縛られて生きて行くこととなります。自分が過去に縛られているかどうかも知らずに。これは律法や道徳のような法則だけの話ではありません。私たちにはさまざまな過去があります。また、人それぞれ神様がさまざまないろいろな過去を許されました。神様の大きな主権の中で。理由はキリストと出会い、いのちを得させるために神様の主権の中で許されたものなのです。

5) 失敗、過ち、苦難、苦しみの過去、成功、誇り、業績…の過去

過去に私たち失敗がありました。また願ってはなかったでしょうけれども、過ちを犯したことがあります。さまざまな苦難も経験しました。苦しみの過去などがありました。反対に成功した過去もあったかもしれません。誇りにするような過去を持っている人もいるでしょう。いろいろな業績を積み上げた過去を持っている人もいるかもしれません。しかし、そのようなすべての過去の役割は、人間がそういったものでは幸せになれない、キリストの他には希望がないということに気づいてもらうための養育係だったんです。なのにいまだに自分がキリストの他には希望のない、本当に絶対解決不可能な霊的な問題を抱えている者だということを心から認めていないので、良い信者になろうと思っても過去から自由になりません。ずっと失敗に過ちに成功に自慢話に縛られて人生を生きるようになるしかありません。それはイエス・キリストに出会うまでの役割なのです。イエス・キリスト、花婿が現れた以上、その役割は終わって消えてなくなりました。私たちは新しい世界を生きる者に作り変えられたものということをおぼえてはいけません。どのような失敗があったのでしょうか。どのようなつらい経験があったのでしょうか。どのようにすごい自慢があったのでしょうか。だからそれがどうしたのでしょうか。その役割は終わりました。

6) 信者には傷も自慢もなくただ感謝だけが

だからこそ信者には傷などは実は存在しません。存在してはいけません。また自慢も存在しません。何が自慢でしょうか。何がそんなに傷なのでしょう。信者に残るのはそのすべてを取り上げて、これを通してこのすべてが働いて私をキリストへと導いて、私が救われるように、私にいのちが与えられるために、私が絶望的な地獄の運命から救われるために必要な役割があったものなんだねということに気づいて、そのすべてを感謝すること以外には何も残りません。これがクリスチャンです。感謝するときこそ過去から自由になります。過去に縛られていては証人となるという祝福の宣言と私とはあまりにも遠く離れることとなります。しかし、このことさえしっかり整理されればよいのです。どのような法則であれ、どういう失敗で、どのような過ちであれ、どんなつらい経験であれ、それに縛られてはいけません。もう終わりました。その役割は人間の基準で評価するときには良いこと悪いこと恨みつらみ、さまざまな評価があるでしょうけれども、その評価がある限りは縛られていることなのです。すべてキリストと出会うための養育係なのです。その役割の他にはありません。そして、私たちが神様の恵みによってイエス・キリストと出会ったので、その役割はとっくに終わりました。終わったのになぜそれにそんなにくよくよしているのでしょうか。縛られる理由などありません。自由にならないといけません。わかったときに自由になります。そういう意味でパウロは、古いものは過ぎ去り、すべてが新しくなると。他の人の過去を見るときも同じです。自分の過去が整理されていないのに、他人の過去を見て正しく答えを提供することができるのでしょうか。そんなに何が気になって、何にそんなに囚われて、何にそんなに振り回されているのでしょうか。役割は終わりました。キリスト以外に何も見えてはいけません。現場で姦淫の罪を犯していた女の人に皆、石を投げて殺そうとしました。イエス様は彼女に言います。わたしもあなたを罪に定めません。イエス・キリストがもしいらっしやらなければ石を投げられ殺されて当然かもしれません。それは過去なのです。イエス・キリストが来られた以上、キリスト・イエスと出会った以上、その過去の法則、役割が終わったので力を発揮することができません。それに縛られることなどありません。彼女とイエス・キリストだけがそこに残ったということです。今までのすべての法則がすべて力を失い、消えてなくなりイエス・キリストだけが残るように。うっかり知らない人、絶対解決可能な霊的な問題が何か分かっていない人から見ると、凶々しいな。合理化するな。勝手だなと思うかもしれません。どうぞ勝手に思っ

てください。私は過去に縛られません。どんな過去であれ終わりました。根に持っていること、クリスチャンにはそんなことありません。胃がんになりますよ。何がそんなに気になるのでしょうか。何がそんなに許せないのでしょうか。何がそんなに忘れられないのでしょうか。縛られているからです。悪霊がその考えを支配します。これがクリスチャンなのに証人として、特に現場で福音を伝えなくちゃ、あの人に福音が必要なのに、ここで光を放つやぐらとして自分が立たなきゃ、やぐらを建てなきゃという思いにならないのです。いまだにクリアできていない過去とのやり取りがずっとあるから。この過去から自由になった時に、私たちはこのような新しい世界に移ることになります。

2. イエス様にあってすべてを再解釈する時、真の勝利の門が開く

二番目です。なので、過去から自由になって、これからはイエス様にあってすべてを再解釈するときに真の勝利の門が開くようになります。

これからは過去の法則ではなくて、それはもう終わったので忘れてください。イエス・キリストにあってすべてを再解釈します。新しいぶどう酒は新しい革袋に入れなさいとおっしゃる意味がそこにあります。

1) 過去は土台 概念の修正-幸せ、問題、成功-私は誰？

つまり、今まで申し上げましたように、キリスト・イエスにあって私にあった過去は、それが良いものであれば悪いものであれ、すべての確保は土台なのです。それが再解釈です。それを土台にするためには、まず概念を修正して行かないといけません。イエス・キリストにあって。今までは幸せに対して何が幸せだと思っていたのでしょうか。何も問題がなければ幸せなののでしょうか。子どもが親の願い通りに順調に育っていけばそれが幸せなののでしょうか。病気をしないで健康に暮らすことができれば幸せなののでしょうか。お金の不自由なく裕福に暮らすことができれば、戦争などがなくて平和な国であれば幸せなののでしょうか。今まではそういう概念だったでしょうが、クリスチャンの私たちはイエス・キリストにあって幸せに対しての概念を修正しなければいけません。なぜ修正できないのか、先ほども申し上げましたように、過去に縛られている限りは、過去のまま幸せを見るようになります。幸せは何が幸せなののでしょうか。短く申し上げると、キリストにあるイエスあるところに幸せあり、イエスがいないところは不幸なのです。概念が修正されないとはいけません。これが修正されていないので証人としての道が開かれないのです。

もう一つ同じ内容でしょうけれども、何が問題なののでしょうか。問題に対しての概念を修正しないとはいけません。何が問題なのでしょうか。子どもが非行に走ることが問題なのでしょうか。病気は問題なのでしょうか。離婚が問題なのでしょうか。麻薬中毒が問題なののでしょうか。戦争が問題なののでしょうか。もちろんそれを正当化するつもりはありません。それが問題だと思っている限り、過去から自由になりません。本当に病気が問題だと、精神的なトラブルが問題だと思っている限りはキリストは見えません。それが問題なので、その問題の解決に向かって違うところに走るようになり、もしキリストを求めるとしても、バプテスマのヨハネ、エリヤのような違うキリストになるしかありません。クリスチャンの私たちにとっても大切なのですが、何が問題なのかに対しての概念がなかなか修正されないのです。今も子どもに何かあればすぐに問題だと思うでしょう。それが問題だと思っている限り、キリストが見えません。なぜそう思うのでしょうか。誰がそういうふうにするのでしょうか。それが悪霊の働きなのです。病気が問題だ、離婚が問題だ、あの人間が問題だ、自分が問題だ。本当にそれが問題なのでしょうか。社会制度が問題なののでしょうか。もちろん望ましいと思いません。しかし、クリスチャンはそれを問題だと思いません。問題はそこにあるわけではありません。神様を離れて悪魔サタンに支配されていることが問題なのです。それが本物の本当の問題なので、違うことを問題だと思っている限り、本当の問題を見ること邪魔する働きなので、それは100%、私たちの考えを悪霊が牛耳ってほんとうの問題を見ることできないようにずっと精神的な問題が問題だと思って、自分の性格は問題だと病気が問題だと、あの旦那さんが奥さんが問題だとずっと思わせる霊的な働きなのです。私たちのたましいが死んでしまったその癖があって、考えと思いを悪霊が支配して動かすわけです。悪霊にとり憑りつかれて変な事を喋ることだけではなくて、本当の問題を見ること

できないように違うことが問題だとそれに囚われるように、それに執着するように仕掛けるのが悪霊の働きなのです。就職できないのが問題でしょうか。大学に進学できないのが問題でしょうか。成績が悪いことが問題なのでしょうか。皆さん本当に何が問題だと素直に思っているのでしょうか。又思ってきたのでしょうか。そこにすべての鍵があるのです。それが悪霊の働きだということも知らずに。当たり前じゃないか。仕方ないじゃないか。当然ではないのか。つついそう思って人生を生きてきたでしょう。信者なのに。問題は悪魔サタンなのです。神様を離れたので悪魔サタンが人を操ることなのです。だから努力するからでもなくて、旦那さんが変わることが解決でもないし、病気が癒されることが解決でもないし、答えでもないし、キリストだけが答えです。キリストを見なうに、本当の問題を問題だと思わないように、違う何かの問題だと思わせる霊的な働きを知らなければなりません。だからキリストにならないのです。暗闇の力が砕かれませんか。いくら聖書を読んで神学的な学びをして学びが深くなったとしても、メッセージをいくら聞いても、問題が何かに対しての意識が変わっていない限りはキリストとは遠くなってしまいます。何が問題でしょうか。誰も罪に定めることなどできません。本当の問題が分かれば、その人を生かすのちの他には、キリストの他には言うべきことは何も存在しません。だからイエス様は7回の70倍でも許しなさいとおっしゃったのです。それを寛容な心を持って心が広い立派な人間だからできることではありません。何が問題なのかわかっているから。結局、教会を潰そうとしているサタンの働き。世のさまざまな思想を教会に持ち込む悪魔の悪巧みということのキーポイントは、クリスチャンなのに教会なのに、何が問題なのかを直視できないように絡ませるわけです。それが結局は今までの歴史の戦いなのです。今も同じです。それがそういう暗闇の働きなのかどうかも知らずにずっと騙されっぱなしなのです。何が問題なのでしょうか。修正しないといけません。結局、何が成功なのでしょうか。社会的に認められるようになれば成功なのでしょうか。大金持ちになれば成功でしょうか。自分が目標にしていたことを達成すれば成功なのでしょうか。社会的な地位が得られるようになれば成功なのでしょうか。私たちはそれが成功だと思っているのです。でも、本当の問題が何か分かれば、社会的に成功をおさめた人、すごい地位が得られた人、すごい金持ちでも、滅びるしかないかわいそうな人間ではないでしょうか。そこで何が成功と言えるのでしょうか。本当の成功は目に見えるものにはありません。だから、彼らを助けなきゃいけない。そのために私は召されているのだというミッションを掴んで、ミッションのために残りの生涯を生きて行く人が成功者なのです。それが成功です。そのために必要に応じて目に見えるいわば世の中で成功と言っているような祝福が加えて与えられるものであって、クリスチャンはそれを成功と思わないのです。それが成功だと思っているから大学教授を見ると羨ましいな。国会議員を見ると、金持ちを見ると羨ましいなと思うから、どこでいのちの働きが可能なのでしょうか。成功者はミッションを見つけている人なのです。ミッションのために人生を生きる人は成功者です。イエス・キリストにあってすべてを再解釈して修正しないといけません。言葉を変えますと、何を修正すべきなのかというと、私は誰なのか。皆さん自分は誰なのでしょうか。今まで過去に縛られていて、皆さんのことを考えていたかもしれません。イエス・キリストにあって自分自身を再解釈しないといけません。それをやぐらと言います。私たちは条件、環境、状況がどうであれ幸せなものなのです。すべての問題は終わったのです。私は世の中で成功を自慢している人よりはるかに優る、彼らを生かすためのミッションを持って生きる成功者です。これが私です。世界福音化の契約のために。自分の現場からスタートして。ローマにまで、地の果てにまで、その祝福が約束されているそのミッションのために生きる者なのです。それを修正しないといけません。自分のことを。過去を修正して。

2) 今日契約の旅路 神の主権、導き、ご計画、神の国-どのように生きる？(祈り)

となると、今日はどんな日なのか、それが修正されないといけません。今日はどんな日でしょうか。学校に行く日でしょうか。お金を稼ぐために仕事に出る日でしょうか。もちろんそれ嘘ではありません。でも自分が誰なのか再解釈して修正できたものであれば、今日の一日はそのミッション、契約が全うされるための契約の旅路の一日なのです。そのように再解釈しないといけません。つまり神の契約のためにそれを全うされる誰も止められない神の主権の中で動かされている一日なのです。そしてその神の契約が全うされるために神様が導かれる一日を過ごすわけです。いろいろなことがあるでしょうけれども、神の主権の

下で神の導きに従って歩く契約の旅程の一日であり、だからこそすべてのことになんでなんでではなくて、神の計画がある一日を過ごすようになるので、すべての場面、場面で神の計画は何でしょうかと問いかけつつ生きる一日なのです。神の計画の一日。結局、この一日を通して神の国を生き、神の国が臨まれるための一日を生きるわけです。これが今日に対しての再解釈です。

言葉をまとめますと、過去が再解釈されると、私は誰なのかが修正されます。今日の一日が神の主権の下で契約のための旅程であると、このように再解釈できた場合に、信者の私がどのように生きるべきなのかの答えが変わります。このような内容を祈りと言います。今日の一日を神の主権の下で契約の旅程を歩むために神様が導かれる一日を歩みます。だから神の計画が何か、その計画に従って神の国のために生きますということを忘れないで、一日のすべてに適用して行くことを祈りと言います。どのように生きて行くべきなのか。祈りと共に生きるわけです。神の計画を問いつつ。それが祈りです。今日の一日、朝起きて「神様、今日も契約が全うされる契約の旅程の一日を許してくださりありがとうございます。今日も自分勝手に考えずに感情に流されることなく、神の計画を常に問うことができるように心と思いを守ってください」。これが今日の一日なのです。明日のことは明日心配しなさい。

3) 未来は契約の道しるべ 現場、47、237、5000-私の目標は？

未来に対してどのように再解釈すべきでしょうか。未来はこの祝福が5000未伝道種族にまで広まっていくための神様の契約の道しるべに従って歩いて行くものが未来です。契約の道しるべに従って。皆さんの未来に対して不安でしょうか。未来を知らないでしょうか。まず自分が誰なのか、今日の一日が契約の旅程として祈りとともに歩むようになりますと、まず皆様の現場においていのちの働きがなされ、その証拠を持って47都道府県に237国、5000未伝道種族にいのちの働きを持って広めていくために用意されているものが未来なのです。つまり、未来に対しては私の目標は何なのか。それが未来です。目標は何でしょうか。エルサレムから地の果てにまでこの福音をこのいのちの答えを運んで行くということが目標です。皆さんの能力と関係ありません。気づかない場合は、迫害を通して散らしてでもこの道しるべに従わせるように神様は働くようになります。それが私たちに備えられている未来です。自分勝手に未来を開拓して作っていくものではなくて、神様が備えられた道しるべに従って5000未伝道種族にまで世界福音化が全うされる未来を歩いていくようになります。到底なかなか信じられないでしょう。過去に縛られているからです。過去から自由になって新しいぶどう酒は新しい革袋に。イエス・キリストにあってすべてを再解釈しないとイケません。

みことばをまとめます。今日のメッセージを心に覚えて具体的に実践するためには、皆さんが一番良い時が寝る前だと思います。あまりにも他のことをいっぱいやりだすと寝る前に静かな時間を持つことは難しいかもしれません。なので、ゲームやらテレビやいろいろやるにしても寝る一時間前ぐらいはすべて終わらせて、少し整えて寝る前に777、つまりやぐら、自分は誰なのか。旅程、自分はどのような道を歩くのか。道しるべ、自分はどのような目標に向かって行くものなのか。これは自分が考え出したものではなくて、神から与えられたものなのです。それを持って自分と自分の人生を編集するそのような時間を持ってみてください。真剣にじっくりと考えて黙想しながら777の祝福が私のものに間違いなければ私は誰なのか。私はどのように生きるのか。私は何のために生きるものなのか。これからどうなるのかということ。自分勝手に考えるのではなくて、この神のみことばの祝福によって自分を編集するようにしましょう。自分の人生を。そして、それが間違いなければ毎日やってください。刻印されるまで。それが間違いなければ、朝目覚めたときにはすぐに「今日も福音を聞くべきたましいを起こしてください」。いや、起こされるかどうかわかりませんが私はそのために生きる者だから。そして私のすべてに勉強、家庭、仕事、体に御座の祝福が注がれるように。これは肉体的な祝福のためではありません。証人としての結論が出ているから。そして今日の一日も契約の旅程を歩くように導いてくださいというように祈ってください。自分自身を尊重することです。神によってキリストの血潮によって新しく造られた自分を認めて尊重することです。昼間は騙されないようにガラテヤ2:20を、言葉はちょっと変ですが練習するときにしましょう。

別の言葉で言うと、自分殺しの練習です。古き自分殺しの練習。何かがある度についつい自分が出てしまうのです。その自分を殺して神の計画は何でしょうか。神様なら、神様はなぜ。そういう体質になるようにその練習をして行く時が昼間です。これを実践してみてください。大切なのは、皆さんがキリストにあって、本当に過去が終わり、役割がすべて終わり、何にも縛られる事のない自由人であり、イエス・キリストによってすべてが新しくなったので、その新しいものを掴んで、新しい世界を歩いて行かないといけません。なのにいまだ新しいぶどう酒を古い革袋に入れようとするから破れてぐしゃぐしゃになって信仰って難しいなあ。祈っても答えがないなどいろいろな文句ばかりです。

最後にもう一度言います。過去の役割は終わりました。何も気にしないで縛られることがないように。なぜでしょうか。キリスト・イエスの中に入らないといけないから。足を引っ張られてはいけません。どのような過去があろうがイエス・キリストの中に入って新しく解釈しましょう。新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れないといけません。それで残りの生涯、約束どおりにイエスの証人として皆さんの現場でのいのちの運動、みことば運動の主人公になってやぐらがしっかり立つように。それでそこがプラットフォームになって、神様が救われるために定められていたたましいをどんどん起こして寄せてくれるプラットフォームになるようにその祝福の主人公になりましょう。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。今日もみことばを通して私たちがうっかり悪霊に騙されて考えと思いがとらわれ縛られていたところを主が教えてくださり、本当に過去から自由になり、キリスト・イエスになって新しく解釈して、新しいぶどう酒をそのいのちを新しい革袋に入れて伝道者としての勝利の道を歩むようにひとりひとりをみことばをもって癒して祝福を与えてください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。